

学生企画活動支援事業紹介

学生企画活動支援事業とは、学生が自ら企画する事業の内、優れたものに対して大学が経済的支援等を行い、学生自身に実体験させることで、学生の企画力・実践力・社会性を高め、優れた教員等の養成に資することを目的としたもので、平成16年度から実施しています。

今回は、採択された事業のうち、「手話を学ぶ」「学生オペラ」「なっきょん's キッチン」の活動を紹介します。

※「学生オペラ」については、前年度採択事業として実施した2017年3月19日公演の活動報告となります。

手話を学ぶ

私たちは、週に1度、実際に聴覚障害のある方を講師としてお招きし、手話を学んでいます。手話は聾者の言語であるとともに文化であるという認識から、実際に聾の方とお話することを「手話を学ぶ」では重視しています。その講師の方に、日常生活で使うことのできる表現から、その時の季節に合わせたイベント等の単語まで幅広く教えていただいています。また、手話を学ぶことを通して、様々なコミュニケーションのあり方について知ることができます。音声を使った言語から、ジェスチャーや、ペビーサインなど、コミュニケーションの多様性を、日々感じています。

そして、2017年3月24日に、奈良県手話言語条例が可決され、4月1日から施行されることとなり、手話の普及や理解、そして聾者とそれ以外の方が尊重しあえる社会を築くことを目指しています。この条例の成立を追い風にしながら、私たちはこれからもより一層力を入れて手話を学んでいこうと思っています。

(記事：特別支援教育専修 2回生 古井 明澄)



学生オペラ

2017年3月19日(日)奈良教育大学講堂にて、学生オペラ「こうもり」を上演いたしました。学生オペラは昨年度で18回目を迎え、学生企画活動支援事業としては13回目の公演となりました。

この公演では「深める」を目標に学生主体で企画・運営を行い、様々な専修や他大学の参加者との交流を大切にしながら、多くのお客様に楽しんでいただける舞台を造り上げることを目指し、練習を進めました。

また、演目の舞台であるウィーンの舞踏会を忠実に再現するために、演出や舞台セット、衣装などにも工夫を重ね、より本格的な世界観を造り上げることが出来ました。

そして、公演を無事に終えることが出来たのは、学生オペラに携わって下さった全ての方々のご支援、ご協力の賜物です。

参加者一同、この活動を通して大きく成長することができ、このような貴重な体験をさせていただきましたことに、大きな喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

また、今年度も学生オペラは演目を「天国と地獄」として引き続き公演を行う予定ですので、是非ともお越し下さい。

(記事：音楽教育専修 3回生 村田 花菜子)



なっきょん'sキッチン

なっきょん'sキッチンとは昨年度の「なっきょんファーム」から引き続き、留学生を含む本学学生全員を対象に、調理を通して食育の観点から児童・生徒を指導することのできる学生を育成することを活動の目的としています。調理や献立の作成方法の理解を通して、学生が食の大切さに気づき食意識の向上を図ることができる点や、給食指導や小学校での調理実習指導に向けて、教員を目指す学生同士で実際に調理室を使用して調理実習を行うことができる点が活動の意義といえます。

今年のテーマは「食物繊維をおいしく摂ろう」です。アンケートを実施し、食物繊維をきちんと摂れているか?を調査すると同時に作りたいメニューを募り、後期にはお料理教室を開催します。友達と、あるいは初めて会った人とコミュニケーションを楽しみながら作った料理は最高に美味しいです。皆さんの参加をお待ちしております!

(記事：家庭科教育専修 3回生 岡本 和子)

